

㊦ 潮騒が子守歌です

生駒台小学校の5年生は、夏休みの1夜を学校で過ごします。青少年赤十字活動とドッキングした1泊2日の学校行事です。昭和63年度は8月1日～2日に実施しました。

この日、教師全員と5年生177人が学校に集合、2日間だけのホームルーム編成が行われました。他の学年担当の見知らぬ先生のクラスに入る緊張のひとつときです。しかし、担当者それぞれが工夫した自己紹介に大きな拍手が起こり、新しいメンバーが打ち解け、早速フィールドワークなどの活動が始まりました。学校の東、光明中学校の裏山、市の総合体育館周辺まで様々な課題を解決しながら歩くこの活動から帰ってくると、先生たちの採点です。

「君たちのグループはサッカー」、「君たちは野球」、「君たちは卓球だ」どれがいい成績なのか分かりません。そっと担当の先生に尋ねると、「子どもたちには内緒ですが、チームを構成するメンバーの数の順になっているのです」ということでした。

夕食後は、燃え上がるキャンプファイアを囲んで、歌や寸劇で楽しいひとときを過ごし、星座にまつわるお話を聞き、夏の星を観察しました。この夜のH先生の星の伝説の話はとても印象的なものでした。話を聞いている間に、キャンプファイアの火はしだいに静かになっていき、N先生たちの手でおき（燠・熾と書きます。薪が燃えて炭のようになったものです）が星型に集められ赤く光っていました。この火の周りで静かに耳を傾けてくれている子どもたちに私は次のような話をしたことを覚えています。

「1日の活動を終え、楽しいひとときを過ごしました。H先生のお話を聞いている間に、皆さんの前、グラウンドの真ん中に大きな赤い星が

生まれました。この星を出発した赤い光は1秒に30万kmという途方もないスピードで、宇宙に向かって進んで行きます。この光が皆さんの頭の上に見えていること座のベガに届くのは今から25年後です。25年、ずいぶん長い年月です。遠い遠いところですが、でも、もっともっと遠い星もいっぱいあります。宇宙ってすごく広いんです。ときにはこんなすごい大きさ・広さを考えてみて欲しいと思います。ちっぽけな悩みなんてどっかに消えてしまうのではないのでしょうか」

そんな話をしているうちに光明中学校の裏山から月が上ってきました。ゆっくり上ってくる月、西側にある校舎に吸い込まれるように消えていく星、その行方を目で追いながら、地球の自転を考えさせました。なんだか寝ころんでいる地面がゆっくりゆっくりと動いている感じがしました。それ



は、教室では得られない実感を伴った学習でした。

私は、4年間このトレーニングセンターに参加しました。先生たちの仕事は大変です。気をつけていてもけががあります。点呼のときにはちゃんといたのに、夜中に見えなくなり、探しに行ったら家に帰っていた、そんなこともありました。このときは、両親が送って来られ、楽しい活動のあと、ぐっすり寝ている様子を見学して帰られました。こんなときしかできない体験を大切にしたい、そんな思いがこの活動を続けさせていました。

こんな体験の上に和歌山県潮岬での野外活動訓練旅行があります。

昭和 55 年から続けている 2 泊 3 日のこの活動は生駒台小学校が修学旅行に代わるものとして実施してきた、しんどいけれど得るところも多いユニークな取り組みです。

昭和 63 年度は、7 月 13 日からの 3 日間に実施しました。遠くに出かけての活動ですし、山と海にまたがる環境です。人里離れたうっそうと繁る雑木林の中、聞こえるものは潮騒の音だけ、そんな中での 2 泊 3 日の活動です。配慮しなければならないこと、工夫しなければならないことがいっぱいありました。でも、やりとげた喜びのある行事でした。私は、この活動について、「でんしょぼと」に次のように書いています。

.....

明日から 3 日間、和歌山県潮岬で 6 年生を対象に野外訓練旅行を実施します。この野外訓練旅行は、5 年生の「校内トレーニングセンター」に続く取り組みで本校の伝統行事の 1 つです。

最近、こういった行事を行う学校が少しずつ増えてきています。その理由は最近の子どもたちの、異常ともいえるくらいの自然ばなれの実態です。「遊ぶ」といえばファミコンゲームであり、まんがを読む（見る）ことであり、テレビを見ることになってしまっています。草原を走り回り、山を駆けめぐるといった遊びが見られなくなっています。自ら自然に働きかけ、遊びを作り出し、自然と触れ合う、そんな経験がないのです。

私たちの生駒台小学校では、こんな生活から脱け出し、子どもらしい子どもの生活を取り戻し、自立の精神を高めたいと考えています。

家庭での温かな生活のすばらしさは当然のことですが、時には、家庭から離れ、自分で自分のことをやらなければならない、そんな生活を味わわせることによって、自主的・創造的な生活の力を育てたいと

考えます。この3日間は、とてもハードな生活です。朝は6時に起床し、自分の寝ていたベッドは自分で片づける、こんなことも普段と違った経験であるという子どもも多いことでしょうし、グループに分かれての学習や生活、そして自分の食事を自分でつくる、そんな生活が知らず知らずのうちに主体的な生活態度を作り出してくれるのです。

.....

生駒台小学校の目標として設定したことの1つに『歩いて行こう自分から』の子どもを育てる」がありました。「歩いて行こう自分から」は、校歌の1節に出てくる言葉で私の大好きな言葉です。

私は、この目標を具体化し、自主性を持った子どもを育てる取り組みを焦点化する視点として「学習の場の拡大」を取り上げました。学習の空間、学習の時間の2つに目を向け、学習を活性化しようというわけです。こうした課題に沿っての取り組みを終え、各学年、各分掌から報告された成果を集約し、財団法人ソニー教育振興財団が行っている「人間のもつ可能性の開発を目指す教育」をテーマにした課題論文に応募することにしました。

ソニー教育振興財団は、全国の小・中学校に教育研究資金や教育機器を贈り「未来を担う子どもたちのために」をモットーとして教育研究やその実践を支援してきた団体です。この年の応募規定には、学校が行った「1人1人の特性を伸ばし、自主的な活動をうながす工夫」について述べること、そして「自主性・協力性を伸ばした実践事例」を添付することとされていました。

論文には、学校づくりの取り組みや私たちの最近の実践を次のようにまとめました。

まず「1人1人を伸ばす空間の拡大と工夫」については

① 近くの野原を教室に

- ② 生駒の町を教室に
- ③ 和歌山県潮岬も教室に
- ④ 藤棚の下も屋上も教室に

などの項目で、教室だけでなく、様々な環境を生かした学習指導のあり方、ここで楽しく学ぶ子どもたちの姿を述べました。

もう1つの「1人1人を伸ばす時間の拡大と工夫」では

- ① 創意・工夫の時間を生かす
- ② 夜の教室－合宿学習－を開く
- ③ 絵を描く時間をたっぷりと

などの項目を挙げ、5年生が楽しく学んだ体育館での合宿、6年生の潮岬での野外活動訓練旅行、絵を描く会についてまとめました。また、「1人1人を伸ばすための地域や家庭との連携」では、着任以来続けてきた学校日より「でんしょぼと」のことを述べました。

冷房のない校長室で、夏休みのほとんどを使ってキーボードをたたき、付属資料を取り揃えた論文で、平成元年度の優良校に選ばれました。

平成元年11月13日、表彰式が全校児童の前で行われました。関西ソニー販売奈良営業所のK所長さんがおいでになり、学校には40数万円のビデオ機器を、子どもたち1人1人にループをいただきました。この取り組みの主役であった子どもたち1人1人にご褒美をいただけたことはとてもうれしいことでした。

この受賞は、生駒台小学校の教員と子どもたち、文字どおりみんな力を合わせての取り組みの成果であり、こうした環境を整えていただいた生駒市や育友会、そして地域の皆さんのおかげだったと思います。